

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1912 号

Prevalence of sleep-disordered breathing among women working in the aged care services in Japan

(日本において介護・医療関連業務に従事する女性の睡眠呼吸障害有病率)

鈴木 有佳 (すずき ゆか)

博士 (医学)

論文内容の要旨

介護・医療関連業務に従事する日本人女性の睡眠呼吸障害 (SDB)の有病率を明らかにすることを目的とし、介護・医療関連業務に従事する 18-60 歳の女性のうち、研究参加に同意し、データ解析が可能であった 712 名を対象に、簡易睡眠呼吸検査(*Eur Respir J* 2008; 32: 1060-1067)、身長・体重・血圧測定および生活習慣・既往歴に関する質問紙調査を実施した。SDB は、一時間当たりの呼吸障害回数である respiratory disturbance index (RDI) を用いて判定した。先行研究にならい、RDI 5-9.9 を軽度 SDB、RDI 10.0-19.9 を中等度 SDB、RDI 20 以上を重度 SDB と定義した。

研究対象者の平均年齢 (SD)は 38.1 (11.5)歳、平均 body mass index (BMI) (SD)は 23.0 (4.2)、平均睡眠時間 (SD)は 6.1 (1.1)時間であった。参加者のうち、18.7%に中等度 SDB が、4.1%に重度 SDB が認められた。中等度以上の SDB を持つ女性 (22.8%) では、年齢、頸部周囲径、身長に対する頸部周囲径の割合、BMI、収縮期血圧、短時間睡眠者 (検査日の睡眠時間が 6 時間未満) の割合、高血圧者の割合、および習慣的にいびきをかき者の割合が、SDB を持たない、または軽度 SDB を持つ者 (RDI 10 未満)に比べて高かった。

本研究により、介護・医療関連業務に従事する日本人女性は、多くの先行研究に比べて若く、また欧米女性に比べて痩せているにもかかわらず、SDB の有病率が高いことが明らかになった。夜勤を含む交代勤務者および教育歴等の社会経済状況の悪い者は、非健康的な生活習慣を持つことが明らかになっており、本研究参加者においても、24.9%が現在喫煙者であり、BMI 25 以上の過体重者は 23.3%と、国民健康・栄養調査において報告されている同年代日本人女性の値よりも高かった。本研究で SDB 有病率が高かった原因として、SDB の危険因子である BMI や喫煙率が高かったことに起因する可能性が考えられた。